

★知っておきたい言葉の知識

近代詩

文語定型詩
文語自由詩
口語定型詩
口語自由詩

「近代詩」…和歌や俳句・漢詩などの伝統的な詩ではなく、西洋の詩を手本にして新しい詩を求めた近代（明治・大正時代）に、文語で書かれた定型（七五調や五七調）の詩、つまり文語定型詩が書かれました。その後、文語自由詩（北原白秋など）、口語定型詩（立原道造など）などが書かれ、口語自由詩（高村光太郎、萩原朔太郎など）が生まれました。

近代に書かれたこれらの文語定型詩、文語自由詩、口語定型詩、口語自由詩などを合わせて「近代詩」とよびます。

身に付けると…

近代に生きた人々が、文学に何を求めていたかを探ることができます。
文学の魅力を知り、人に伝えることもできます。

読んでみよう

【文語自由詩】

夏の夜の船

北原白秋

虫啼ける。

りんりんすりりん……

りんりんすりりん……

あはれわが小舟ぞくだる。
きず 痕つけるわかうどの舟。

りんりんすりりん……

りんりんすりりん……

※ 白秋の詩は曲をつけて歌詞になっているものも多いです。その中で「落葉松（からまつ）」は文語定型詩です。

からまつ　林を過ぎて、
からまつ　しみじみと見き。
からまつ　さびしかりけり。
さびしかりけり。
からまつ　林を出でて、
からまつ　林に入りぬ。
からまつ　林に入りて、
また細く　道はつづけり。

【口語定型詩の一種。ソネット形式とよばれる14行詩。】

草に寝て……六月の或る日曜日に

たちばなみちぞう
立原道造

それは　花にへりどられた　高原の
林のなかの草地であつた　小鳥らの
たのしい唄をくりかへす　美しい声が
まどろんだ耳のそばに　聞こえてゐた
私たちは　山のあちらに
青く　光つてゐる空を
淡く　ながれてゆく　雲を
ながめてゐた　言葉すくなく

——　しあはせはどこにある？

山のあちらの　あの青い空に　そして
その下の　ちひさな　見知らない村に
私たちの　心は　あたたかだつた
山は　優しく　陽にたからされてゐた
希望と夢と　小鳥と花と
私たちの友だちだつた

【口語自由詩】

道程

たかむらこうたろう
高村光太郎

僕の前に道はない

僕の後ろに道は出来る

ああ、自然よ

父よ

僕を一人立ちにさせた広大な父
よ

僕から目を離さないで

守ることをせよ

常に父の気魄を僕に充たせよ

この遠い道程のため

この遠い道程のため

【口語自由詩】

竹

はぎわらさくたろう
萩原朔太郎

光る地面に竹が生え、
青だけが生え、
地下には竹の根が生え、
根が次第にほそらみ
根の先より繊毛が生え、
かすかにふるえ。